

Scope 46

名城大学理工学部後援会 会報誌 スコープ 2019



Scope 46

名城大学理工学部後援会 会報誌 スコープ 2019

令和元年5月25日発行

[編集] 名城大学理工学部後援会 編集担当委員会

[制作・印刷] 株式会社プリアートコーポレーション

[発行] 名城大学理工学部後援会事務局

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501

Tel 代表 052-832-1151 (内線 2580)

Tel・Fax 直通 052-831-9214

E-mail jimukyoku@meijo-rikokoen.jp

<http://www.meijo-rikokoen.jp>

名城大学理工学部後援会

◀ 検索



Meijo University
Faculty of Science and Technology.
Supporters' Association.

“リチウムイオン電池”実用化が支える IT・ET革命

繰り返し使え、且つ力強い、小さなリチウムイオン電池は
IT革命の潤滑油となり、さらなるET革命を目指す—。

特集
インタビュー

名城大学大学院 理工学研究科 教授

吉野 彰 博士

Akira Yoshino

電気化学を専門とするエンジニア、研究者。
大阪大学博士(工学)であり、旭化成名譽フェローを兼務。
携帯電話やパソコンなどに用いられる、
リチウムイオン電池の発明者の一人である。
名城大学では、名城大学大学院理工学研究科の教授を務め、
2004年の紫綬褒章受章をはじめ、
2014年チャールズ・スターク・ドレイパー賞、
そして2018年には日本国際賞を受賞。
今回のインタビューでは、
リチウムイオン電池の実用化への道のりと
名城大学理工学部生へのメッセージをいただいた。

平成31年度 名城大学 calendar

4 1月 ● 入学式
1(月)・2(火) ● 新入生オリエンテーション
3(水) ● 前期授業開始日
上旬 ● 履修登録期間
上旬 ● 健康診断

7 18(木)・22(月) ● 補講日
23(火)～8/3(土) ● 定期試験(予備日8/2(金))
下旬 ● オープンキャンパス

8 2(金) ● 定期試験予備日
上旬 ● オープンキャンパス
8(木)～17(土) ● 窓口閉鎖期間
22(木) ● 定期試験成績発表
● 夏季集中講義期間
28(水)～31(土) ● 追・再試験期間

9 5(木)・6(金) ● 追加履修登録期間
● 夏季集中講義期間
14(土) ● 後期授業開始日
22(日) ● 開学記念日
下旬 ● 9月卒業式

10 30(水) ● 大学祭準備
31(木) ● 大学祭

11 1(金)・2(土) ● 大学祭
3(日) ● 大学祭後片付け
上旬 ● スポーツ推薦入試
中旬 ● 公募制推薦入試

12 27(金) ● 年内授業終了日
28(土)～1/4(土) ● 窓口閉鎖期間

1 6(月) ● 授業再開日
14(火)・15(水) ● 補講日
17(金) ● 大学入試センター試験準備
18(土)・19(日) ● 大学入試センター試験
16(木)～28(火) ● 定期試験(予備日1/29(水))

2 上旬 ● A・F・M入試
6(木) ● 定期試験成績発表
中旬 ● B入試
13(木)～19(水) ● 追・再試験期間
下旬～3月上旬 ● 転学部等試験

3 17(火) ● 卒業式
下旬 ● 次年度在学生ガイダンス
下旬 ● 在学生健康診断

最新情報は名城大学ホームページをご覧ください。
<http://www.meijo-u.ac.jp/>

表紙・中面イラスト 稲木美保

名古屋造形芸術短期大学 洋画コース卒業 名古屋市在住。
デザインプロダクションを経てフリーのイラストレーターとして独立。
おはあちゃんになんでも、絵を描き続けていたら幸せと語る。

Scope 46

名城大学理工学部後援会 会報誌 Scope 2019



もくじ

特集 “リチウムイオン電池”実用化が支える
IT・ET革命

伝統と革新の融合「世界の名城大へ」

理工口マンの旅 ロード

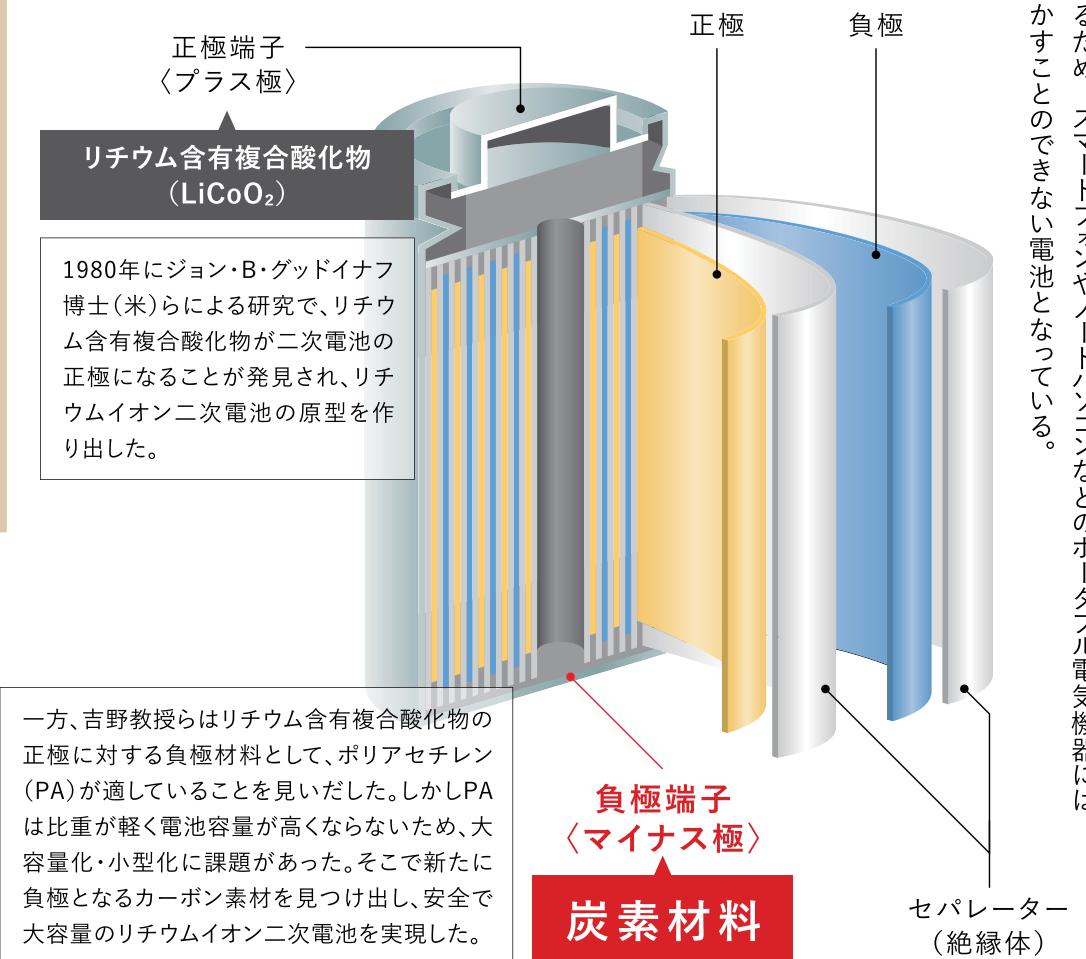
理工学部 2019

- 33 31 29 25 21 19 18 17 15 09 02
- 地区懇談会
「大学生活について知りたい」「こんな大学生活を送っています!」
- 家庭教育支援セミナー
- ご父母のための進路セミナー
- フレッシュマンセミナー
- 理工学部後援会の活動
- 卒業生インタビュー
- 近代商業地下街の成り立ち
- その他の活動紹介



リチウムイオン電池とは？

正極と負極の間をリチウムイオンが移動することで充電や放電を行う、繰り返し充電可能な電池。小型・軽量で4~5V以上の高い起電力があるため、スマートフォンやノートパソコンなどのポータブル電気機器には欠かすことのできない電池となっている。



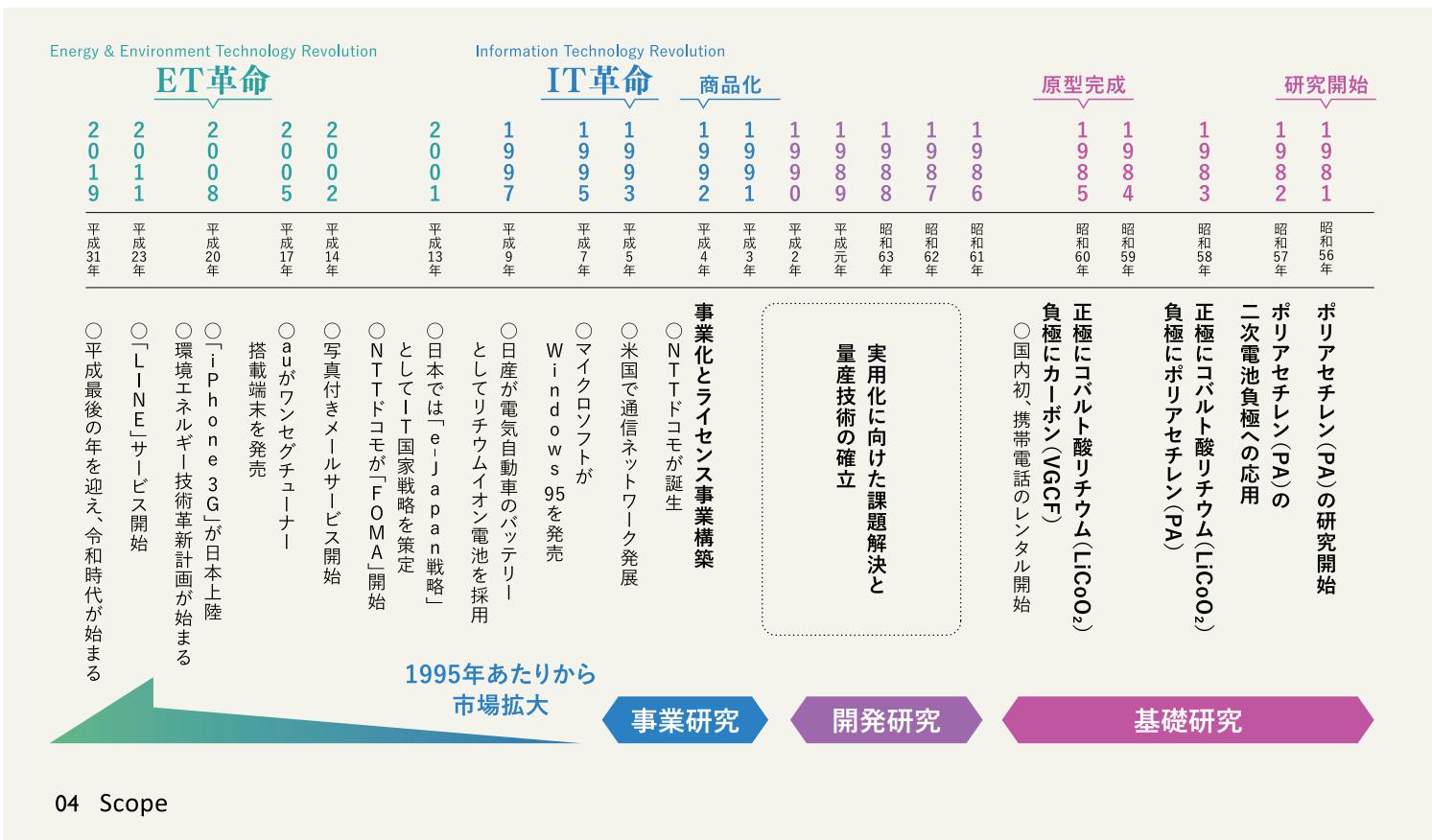
リチウムイオン電池を実用に導いた原動力は、当時の「流行」とば「だった



1980年代のはじめ頃、携帯電話などのモバイル機器の開発がすすめられ、小型・軽量化した大容量二次電池が求められていました。しかしポリアセチレン(PA)を用いたリチウムイオン電池は重量ベースでは従来電池の三分の一に軽量化されたものの、体積ベースでみると従来電池とほぼ変わらず、残念ながら小型化はできなかつたのです。その当時、流行ごとに「ポータブル」というものがあり、とばに「ポータブル」というものがあり、実用で優先するべきは軽量化よりも小型化ということになりました。

そこでPAと似た性質を持ち、より比重が重い素材の検討をはじめ、そのなかで見つけたのがVGCF⁽¹⁾というカーボンです。VGCFを負極に用いたことで、体積ベースでも重量ベースでも、従来電池の三分の一という小型・軽量化を実現できました。また正極と負極を隔てるセパレーターとして薄いポリエチレン系の多孔膜を使用しました。これは万が一、電池が異常発熱した場合には膜が溶けて電池の反応が止まる仕組みで、安全性についても商品化できるところまで高めることができました。

(1) Vapor-Grown Carbon Fibers = 気相成長炭素繊維



私が元々研究していたのは、ポリアセチレン(PA)というプラスチック素材でした。PAはノーベル化学賞を受賞した白川英樹博士が発見した物質で、有機物でありながら電気を通す、珍しい性質を持つ素材です。この素材の使い道として考えたのが、電池の電極にすることでした。

そのころ水を溶媒にした二次電池はありましたが、水は1.5V以上の電圧がかかると水素と炭素に電気分解してしまうため、高い起電力をもつた電池はできないという構造上の弱点がありました。また4~5V以上の電圧に耐える非水系の有機溶媒の二次電池は、負極に使う金属リチウムが充放電を繰り返すと反応性が高まって発火しやすくなっています。そこで不安定な金属リチウムに代えて、PAを負極に用いようとしたのです。しかし二次電池の充放電にはリチウムイオンが必要です。従来のリチウムイオン電池は負極が金属リチウムであることが前提だったので、正極素材にはリチウムを含むものがありませんでした。そんなとき、コバルト酸リチウム(リチウム含有複合酸化物)が電池の正極になり得るという、テキサス大学教授のジョン・B・グッドイナフ博士の論文を目にしました。これによって正極にコバルト酸リチウム、負極にPAを用いたリチウムイオン電池が完成しました。



実用化の壁は、正極と負極の材料だった

特集
インタビュー2019年4月22日
名城大学天白キャンパス
タワー75にて

吉野教授の少年時代と、研究者をめざしたきっかけについて教えてください。

私が生まれたのは大阪の千里山という場所です。大阪万博をきっかけに開発が進みました。が、当時は自然豊かなところで、子どもの頃は虫取りや魚釣りなど自然のなかで遊んでいました。夏にたくさんいた昆虫が、秋になるとすっかりいなくなるのを何となく寂しく感じたりしましたね。そういう環境のなかでおのずと自然科学に関心を持つようになりました。

化学に興味を持つようになったのは、専門が化学だったので、理科の授業では特に熱心にいろいろなことを教えてくださいました。なかでもイギリスの化学者ファラデーの『口ウソクの科学』という本を薦められたことが、化学のおもしろさを知るきっかけだたと思います。これはサイエンスの黎明期と

電池の生産量のわずか0・2%となっています。つまりリチウムイオン電池の使い道が私たちの想像のを遥かに越え、爆發的に多様化したわけです。

当時は今のようなモバイル－Ｔ社会がくるなんて誰も想像していませんでしたし、スマートフォンなどのマーケットが生まれるとも思っていませんでした。しかし予兆のようなものはあるわけです。いろんな雑音のなかにまぎれてくるから難しいのですが、世の中の動き、政治や経済などに関心をもつて、わずかな予兆を感じ取る感受性を磨いておきたいですね。

(2)企業が新たに開発した技術や材料など

難問に直面しても熱意をもつて研究や開発をおこなうことはどうですか？

もいえる18世紀に書かれた本で、ロウソクが燃える仕組みをわかりやすく説明したもので、それから化学に関する本をいろいろと読むようになって、中学や高校でも理科系は得意科目になりましたね。

大学院を卒業するときに、大学に残ってアカデミアの研究者になる道もありましたが、旭化成に入社して産業開発の道を選びました。当時の日本は高度経済成長が終わりかけた従来型のビジネスからの変換期で、産業界全体に新しいものを作り出そうという気運がありました。そのような環境下で、自分の研究が製品になって世に出していく、ということに魅力を感じたからです。

研究や開発において大切なことは、どんなことでしょう？

私はリチウムイオン電池の研究開発を始めたのは1980年代初めのことです。このころは持ち運びする「ポータブル化」という言葉がよく使われており、それがいつしか「コードレス」と「ワイヤレス」の2つに分かれていきました。コードレスは電源コードをなくすこと、ワイヤレスは通信ケーブルをなくすことです。今考えてみれば、同じポータブルでも明確に2つに展開していくわけですが、ワイヤレスについてはよく理解できませんでしたね。

研究者としての最大のモチベーションは、「世界を変えてやろう」という思いです。もちろん大きな研究ばかりではないですよ。でも小さなことでも世に出すことができれば、社会に影響を与えることができる。これが一番おもしろいところで、研究者にとっての夢もあります。

とはいっても、どんな技術開発でも必ず問題点は出てきますし、それを一つ一つ解決していくことは気の遠くなるような作業で、モチベーションを維持するのはなかなか難しいことです。そういうときこそ、「致命的な問題点はない」という確信が必要です。もちろんその判断は簡単ではありませんが、それさえ確信を持てば、いくら問題が出ても、資金、人材、時間をかけては出るからです。むしろその確信があるなら、問題点は早く出くれた方がいい。すぐに問題解決に取りかかることができると言えられるので、モチベーションアップになるでしょう。

ただし、絶対にものになるという信念だけで研究を続けていると、どこかで耐えきれずに折れてしまします。気持ちのなかで「あんなとかなるよ」くらいの柔軟な感覚を持つておくべきでしょうね。強い信念と樂観的な気持ちのどちらも大切で、両方のバランスが困難を乗り越えるためのメンタル的に必要なファクターだと思います。



リチウムイオン電池を開発した吉野彰博士
=東京都千代田区で2009年8月25日、
梅村直承撮影
(写真:毎日新聞社/アフロ)



日本国際賞受賞おめでとうございます。
受賞時の思いについて教えてください。

日本のノーベル賞として位置づけされるい
る名誉ある賞をただけて、大変うれしく
思っています。実は日本国際賞は、2001
年に正極にコバルト酸リチウムを使えること
を発表したグッドイナフ博士が受賞していま
す。本来、ひとつのテーマで2度受賞するこ
とはないので、私の受賞はないだろうと思つ
ていました。受賞理由の説明によれば、前回
はリチウムイオン電池の発明、今回はその普
及によって現在のモバイル－T社会に貢献し
たことが評価されたということです。グッド
イナフ博士の受賞から17年経つて、改めて社
会への影響を評価されたということがとても
印象的でした。

第34回日本国際賞授賞式（写真：AFP／アフロ）

50年後、100年後の未来は、
どんな世界になつているでしょうか？

今から50年、100年先の未来について予
想するのは難しいですね。ただ環境問題につ
いてはすべて答えが出ているはずで、間違い
なくサステイナブルな社会に完全に移行して
いるでしょう。1995年に始まつた－T革
命以降、世界は間違いなく変化してきました。
リチウムイオン電池もモバイル－T社会の發
展に非常に貢献をしてきましたが、今はさら
に次のE-T革命のなかで地球環境問題に対
してのソリューションの提供という大きなミッ
ションに進んでいます。その代表的なものの
ひとつが電気自動車です。

C O₂でいえば、自動車から排出されてい
るのは全体の排出量の15%ほどしかありません。
しかし電気自動車が普及すれば、蓄電池
が社会に定着していくことになり、電気自動
車のバッテリーを家の予備電源や蓄電池シス
テムとして利用することができるようになります。
すると無駄がなくなつて必要な発電量
が少なくなります。さらに蓄電できる」とい
うことで再生可能エネルギーも本来の力を發揮
できるようになります。そうなれば、C O₂
排出量全体の約25%と、最大の割合を占める
発電所からのC O₂を削減でけるわけです。
結果として車と発電所から出るC O₂をゼロ
にできれば、全体の排出量の約40%を削減す
ることになります。他には工業などでも排出
されますが、そちらも減らしていくことで

三分の一や四分の一にする」とは決して不可能
ではないと考えています。これには人工知能
(A-I)や－Tも多大な貢献をしてくれる
はずです。無駄をなくす、最適化するとい
うのはA-Iの一番得意なところですからね。

(3) Energy & Environment Technology

(4) Internet of Things



これから社会や企業が求めるのは、 どんな人材でしょうか？

流行り廃りではなく、その次にどうなるかを
見定める目を持つことが大切です。興味を
持つて幅広い知識を得ることで、専門の学問
についても違った角度から捉えることができ
るようになるはずです。

またどんなことでもいいので、仮説を立て
て自分で考へる習慣をつけることも大切です。
政治でも、スポーツでも、芸能でも何でもいい
ので、いろんな情報をもとに自分なりに考え
て仮説を立てて、答えが出たら答え合わせ
をする。もし違っていたら、自分が考へて
いたシナリオのなかで、どこで違つたのかを
また考へる。根拠をもって仮説を立てるとい
うことは、先読みをするということです。
自分で考へて先を読む習慣は、社会に出た
ときにきっと役に立つと思います。



最後に、在学生のご父母に向けての
メッセージをお願いします。



今の企業が求めているのは平均的な人では
なく、少々型破りでもいいから独創的なこと
を考える人でしょ。社会情勢が目まぐるし
く変わつていく状況で、企業としてもどんど
ん新しいことをやっていきたいはずです。

日本全体として必要な人材は、世界に通
用する新しいベンチャーを起こせる人間です
ね。ただG-A-F(5)Aのような世界を席卷する
企業がアメリカの西海岸に集中しているよう
に、革新的なベンチャーを興すには環境も重
要な要素になります。ひとつにはスタンフォー
ド大学のように新しい研究が次々に出てくる
知恵袋。もうひとつは可能性のある若者に投
資するファンド。そしてさまざま アイディ
アやシーズを持つ人が集まつて、お酒でも
飲みながら未来を語るコミュニケーションがあると
いうこと。

日本でこういった条件をクリアするのは難
しいですが、京都あたりなら京都大学があつ
て、京セラの稻森和夫さんのような成功組が
いて、伏見の酒もあって、ベンチャーを育てる
風土があるかもしれません。それとも日本
なら社内ベンチャーミニなもののが育つのが一
番手つ取り早いのかもしれませんね。もちろん
みんながみんなベンチャー企業を興さなく
てもいいのですが、リスクを恐れずにそれに
匹敵するようなチャレンジをしてほしいですね。

(5) 主要－T企業であるGoogle、Amazon、
Facebook、Apple の頭文字を取つた総称

伝統と革新の融合「世界の名城大」へ 理工学部 2019

11学科の学びと教養教育のご紹介

世界的に
評価の高い研究を通じ、
広く社会で活躍できる
人材を育成。



名城大学理工学部 学部長 齊藤 公明

本学部は青色発光ダイオード(LED)、カーボンナノチューブ、リチウムイオン電池、医療機械工学などで世界的に著名な研究者を擁し、研究レベルの高さは世界的に評価されています。ここでの研究は、世の中を変えていく可能性に満ちた、新たな理論・科学技術の創造につながるものであり、国や企業との共同研究も積極的に進めています。今後は研究実績を広く国内外へと発信するとともに、さらに次代を担うグローバルな人材の育成にも力を注ぎ、開学百周年に向けて進化を続けて参ります。

理工学部では、総合基礎および理工学基礎の科目群で人文および社会科学、自然科学、体育科学、語学を広くかつ体系的に学びます。これらは専門課程での学習と研究の土台となるステップです。これから時代には、個々の情報や知識の間を結び



本学部は青色発光ダイオード

教養教育

専門知識を活かすため、
基礎力、対話力、総合力を
高める必要性がある。

教養教育長 松村 昌紀

数学学科



数学を通じて
理解することを実感し、
思考能力を高める。

学科長 橋本 英哉

本科では数学を系統的に学べるよう代数学・解析学・幾何学・数理情報・計算機科学の5分野のカリキュラムを組んでいます。学びを通して確かな基礎力を養い、自ら考える力や選択能力を高めます。数学は、10年、20年後に熟成された成果を実感でき

る学問です。基礎学力の上に大いに変わってきます。人生百年時代をよりハイレベルな人材として生き抜くためにも、大学院への進学を推奨しています。

研究室 PICKUP



植松哲也 研究室

思考力、伝達力を強化

ガロア理論や代数幾何といった古い意味で「方程式やその解の様子を調べること」をテーマとする研究室です。文献を分担して読み、仲間の前で発表しながら互いに理解を深めていく「輪講」という伝統的な形式で進めています。学生たちは主体性をもつて取り組んでおり、論理的な思考に基づいて「自分はどこまで理解し、何がわからないのか」を把握する力、理解したことを自分の言葉で説明する力を身につけています。こうした経験は卒業後、様々な分野で新しいことに取り組んでいく上での大切な礎になると考えています。

情報工学科



充実のプログラマムと
学外との連携で基礎力を
備えた人材に成長。

学科長 山本 修身

現在のIoT(Internet of Things)

社会を幅広く支えているのが、情報工学分野です。本科では、目標に応じた系統的な知識習得のためプログラム制を導入しているほか、「プログラミングコンテストを通じたエンジニア育成プロジェクト」を進めています。

研究室 PICKUP



熊谷慎也 研究室

マイクロデバイスで細胞の活動を制御

向井研究室が目標とするのは、センサによってシステムを知能化し、世の中に役立つシステムをつくることです。薄く柔らかく低コストの導電性ゴム製シートを用いた触覚センサで体圧や呼吸数、心拍数を測定したり、被験者の負担を抑えて睡眠モニタリングを行うための研究を進めているほか、光電脈波計の性能向上、携帯型ブレインコンピュータインターフェースの開発、介護支援ロボットなど、健康福祉分野への応用を見据えた各種研究に取り組んでおり、企業など学外との交流、共同研究も積極的に行ってています。

電気電子工学科



興味・関心に対応した
コース制で学びを深め、
望む将来へと向かう。

学科長 児玉 哲司

電気電子は、いわば「快適な未来をつくる」学問です。次世代バッテリー、再生可能エネルギー、ロボット、スマートばかり多岐にわたり、研究は自ずと世界につながります。本科では電気工学コース・電子システムコースの2コースを通して成長が可能です。

ス制で、研究開発の基礎を学びます。例年、高い就職率を誇ります。先端技術の研究や高度技術者となることを目指すならば、大学院への進学をお勧めします。企業や学外研究機関との共同研究や、国際会議での発表を通して成長が可能です。



研究室 PICKUP



向井利春 研究室

世の中に役立つシステムづくり

向井研究室が構成する細胞は、外部から刺激に反応します。これまで、化学試薬を投与したり、環境温度を調節したりして、細胞の活動が抑制されたり、細胞を直接照射できるマイクロデバイスを開発し、細胞の活動を制御する研究を進めています。研究室では、「一つの細胞」に対して「プラズマを直接照射できるマイクロデバイス」を開発し、細胞の活動を制御する研究を進めています。研究室の学生は意欲的に実験に取り組んでいます。実験を通して成功体験を積み重ね、自信をつけてもらいたいです。



材料機能工学科

世界をリードする
高度な研究・開発と、
きめ細かな指導を展開。

学科長 六田 英治



材料工学は、エネルギー、環境、資源など世界的な諸課題の解決につながる分野です。本科では、LEDやカーボンナノチューブなどの新材料から機能性材料、生体材料まで幅広い領域にわたる研究を展開しています。また、学生への個別面談など、細やか

な指導で学生個々に寄り添います。国、企業の研究所や他大学への学生派遣制度ほか良い刺激を受ける機会が多く、大学院への進学率が高いのも本科の特長です。高い意識とスキルを身につけ、企業で即戦力として活躍する卒業生も多くいます。

応用化学科



物質の新たな特性を探求し、世界に向けて発信。

学科長 永田 央

本科では「合成化学」「物質・材料化学」「環境・エネルギー・材料」の3領域にわたりて研究を展開しています。ナノチューブやゲル化剤、粘液状物質、セラミックスなどの物質特性や、光触媒を使った新しい化学反応を研究。他学科とも連携して、これまで

ない新たな特性を引き出したいと考えています。優れた業績を持つ研究者たちが在籍しており、学生は先生方のもとで学びを深めます。院生は国際会議で発表する機会もあり、グローバルな視野を備えた研究者として成長できる環境です。

機械工学科



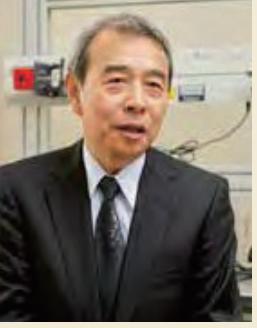
海外交流もしながら総合的に機械工学を学び、技術者として成長。

学科長 久保 貴

自動車、航空機をはじめ製造業が盛んな東海地区にあって、本科では「熱・流体」「材料・強度」「設計・生産」「運動力学・制御」の4分野を基盤として、機械工学の基礎から実践までを総合的に学びます。1年次は基礎学習に力を入れ、2年次以降は実習を

通じて設計から製作までを行う確かな力を身につけます。また、カリフォルニア大学との交流を通してグローバル感覚も養います。就職状況は非常に良好であり、大学院で専門性を高めてハイレベルな技術者を目指すこともお勧めしています。

交通機械工学科



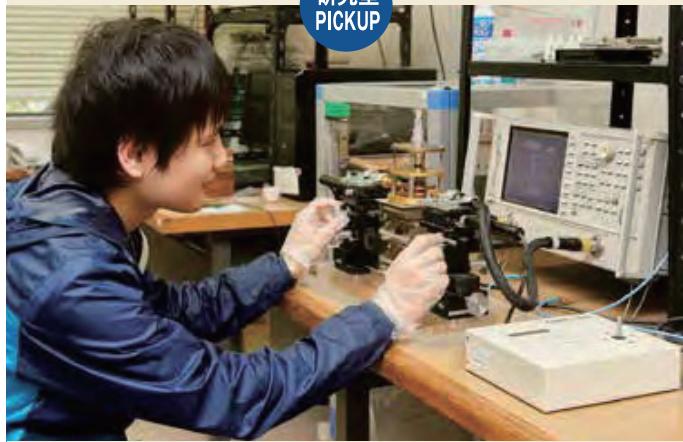
交通機械の製造開発で地域産業を支え、高みを目指す人材に。

学科長 加鳥 裕明

東海地区は自動車、航空機、鉄道車両等の交通機械の製造開発で日本をリードする存在です。本科では、交通機械のものづくりに必要な機械工学の基礎学力と応用技術に加えて、交通機械を取り巻く環境、安全問題に対応できるセンスをも身につけた

機械技術者の育成に携わっています。50年近くにわたって多くの人材を輩出し、地域産業界を支える存在ともいえます。なお、人生百年時代に将来の可能性を広げるためには、大学院に進学し、より高度な技術者を目指すことをお勧めします。

研究室
PICKUP



菅 章紀 研究室

自動運転や燃料電池自動車に向けた材料開発



当研究室では、情報通信やエネルギー分野において、乗り物に関連した材料の開発を行っています。情報通信分野では、自動車の自動運転に必要不可欠な高速大容量・低遅延・多接続を可能とする5G通信を支える誘電体材料の開発を進めています。また、エネルギー分野では、燃料電池自動車に向けた高性能・低コストの燃料電池材料の開発を行っており、産学官連携でそれらの研究に取り組んでいます。学生たちは自分たちが関わった研究が近い将来において実用化される手応えを感じながら、積極的に実験に取り組んでいます。

研究室
PICKUP



吉川 泰晴 研究室

画期的な塑性加工技術を探求



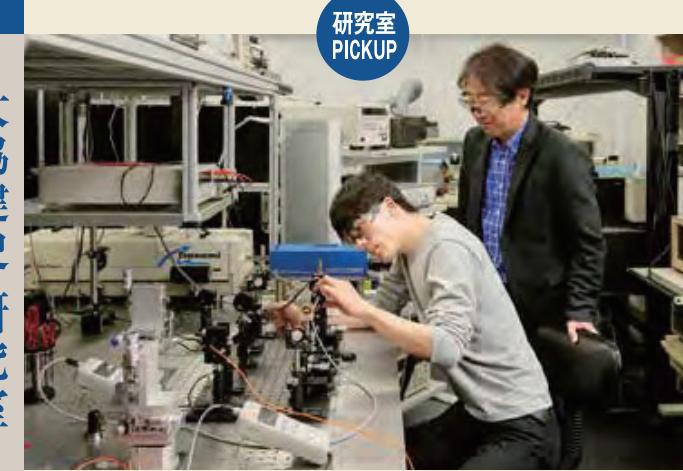
光触媒とは、光が当たることによって酸化還元反応を起こさせる物質です。有機化合物や細菌などの有害物質を浄化する働きをし、すでに住宅で汚れが自然に落ちる壁面や、医療現場で用いる抗菌服など、幅広い分野で実用化されています。当研究室では、光触媒材料の高性能化や、燃料の創出など光触媒の新たな分野への応用を目指して、材料開発と物性解析および特性評価を行っています。企業との共同研究にも多く取り組んでおり、学生たちは実験を通じて自発的な計画性や考対力、行動する力も養っています。

研究室
PICKUP



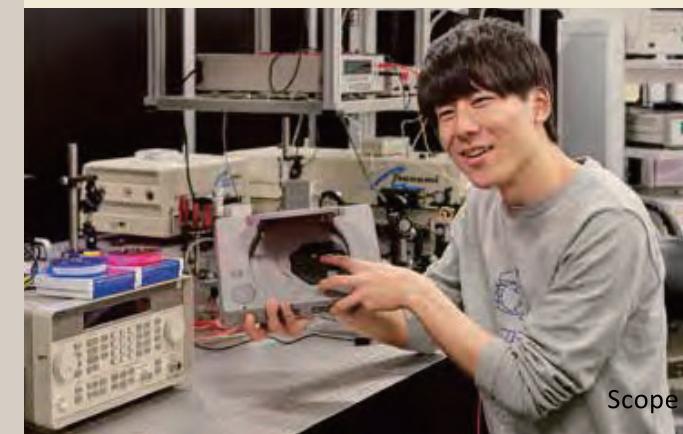
大脇 健史 研究室

光触媒による環境浄化



光デバイス研究で世界をリードする名城大学にあって、この研究室では、窒化物半導体を中心とした新規半導体レーザの作製と、それらの構造や光物理的性の評価を行っています。すでに光記録、光通信などが実用化されているほか医療や自動車の自動運転、海底探査など半導体レーザ技術は幅広い分野で求められています。この技術は日本が先行する分野であり、これまでできなかつたことを可能にする、次代に向けた研究でもあります。企業や他大学など各研究機関との連携もあり、学生たちは目標達成に向けて意欲的に課題に取り組んでいます。

研究室
PICKUP



宮嶋 孝夫 研究室

新規半導体レーザの応用、展開



メカトロニクス工学科



メカトロニクス的思考で幅広い知識と視野を備えた人材を養成。

学科長 井上 真澄

メカトロニクスは機械・電気・情報制御といった分野が融合しています。このような複合的領域を扱うため、本科では機械電気・情報制御を連携させた教育やロボットコンテストへの参加指導などを通じて、物事を俯瞰的に導などを通じて、物事を俯瞰的

に見る能力を備えつつ自由な発想のできる人材を育成し、社会に送り出します。学科設立から6年を経て、大学院の卒業生も輩出するとともに、大学院には留学生も迎え入れています。卒業生が世界で大いに活躍することを期待しています。

社会基盤デザイン工学科



国際感覚を備えた技術者として、広く社会に貢献。

学科長 石川 靖晃

人が安心・安全で快適な生活を送るために不可欠なのが社会基盤です。本科では、社会基盤の要である「まちづくり」のほか「防災・減災」「自然環境・景観」「設計施工・維持管理」を軸とした教育を通じて「徳・知・技」を兼ね備えた技術者を育成します。

海外の大学や企業でのグローバルインターネット・シップや、技術者としての英語力強化にも力を注いでおり、「コミュニケーション能力」とグローバルな視点を備えた人材として広く社会で活躍するほか、大学院で自分自身をさらに高めることも可能です。

松本幸正研究室



近未来の交通システムとまちづくり

松本研究室では、「人と環境にやさしい」をキーワードに、渋滞や事故がない道路交通環境の実現を目指した研究を行っています。ドライビングシミュレータを用いた新たな情報提供システムの開発や、A-Iによって走行挙動を自律的に決定し、地域全体が最適になるシステムづくりなどに取り組んでいます。他にも、駅前広場のデザインを考えたり、「ミニバスタイバスの改善点を探つたりするなど、自治体と連携した研究も進めています。学生たちは、研究室を飛び出し、地域住民と交流しながら近未来のまちづくりにも関わっています。



日黒淳一研究室

自動運転、VRによる「未来づくり」



自動運転で活用される測位・高精度な地図の構築・評価技術といった産業界と連携した研究をはじめ、仮想現実（VR）を利用した感覚の拡張といったテーマに取り組んでいます。これらは機械・電気・情報というメカトロニクスのどれが欠けていても実現できないことです。また、実現には、しっかりと課題を把握し、自分の手を動かし、自分の頭で考えることが大切と考えています。研究室の学生たちには、研究の課題解決を通して社会でも通用する技術者としての基礎を身につけてもらえるよう心がけて指導をしています。

建築学科



工学から人文・芸術分野まで多様な視点と柔軟な思考力を育む。

学科長 岡田 恭明

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



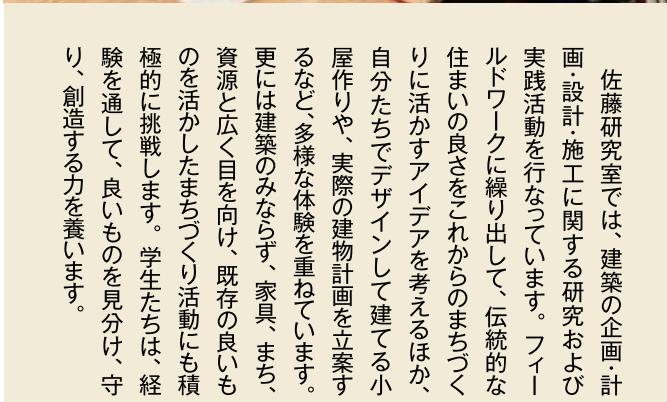
佐藤布武研究室

学び、活かし、良いものをつくる

現代は環境をめぐる多様な課題を抱えており、世界的に環境への関心は高まる一方です。こうした中、ベトナム・中国・韓国などアジア諸国との共同研究や留学生の受け入れを積極的に進め、研究をリードしています。また、エネルギー・資源循環分野

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

学び、活かし、良いものをつくる

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

三宅克英研究室

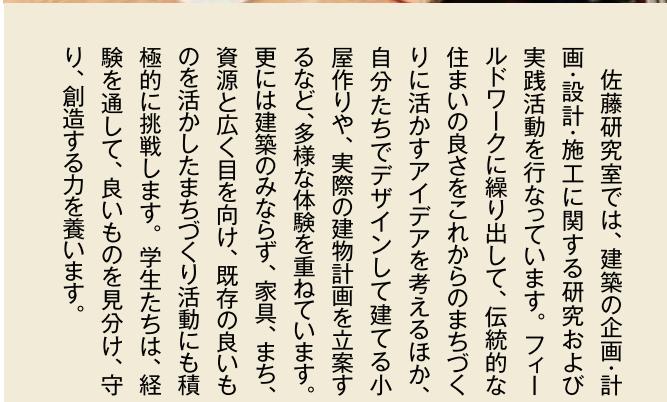
カニによるバイオマス分解と利用

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



三宅克英研究室

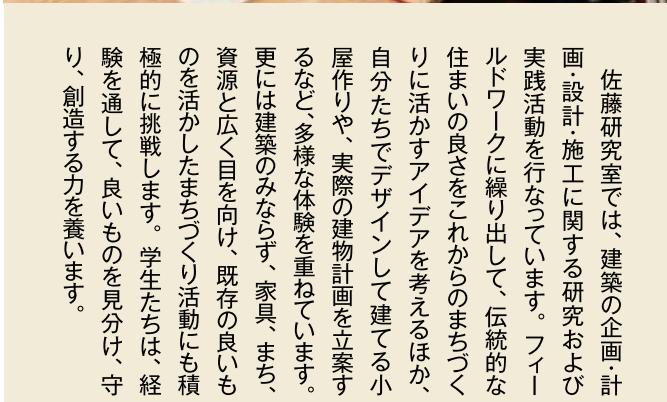
カニによるバイオマス分解と利用

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

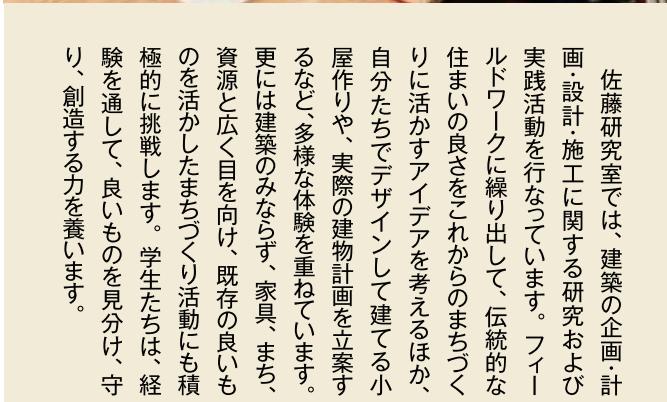
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

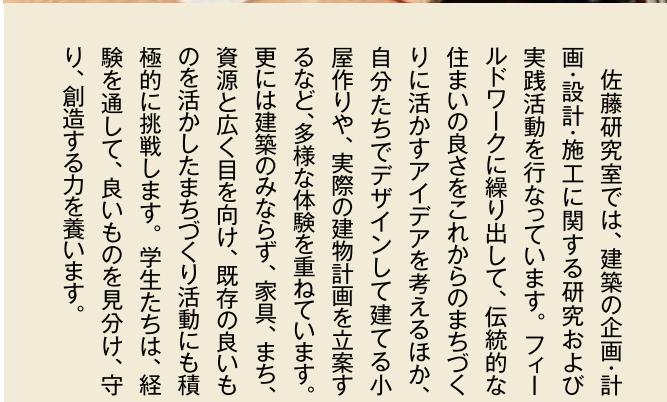
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

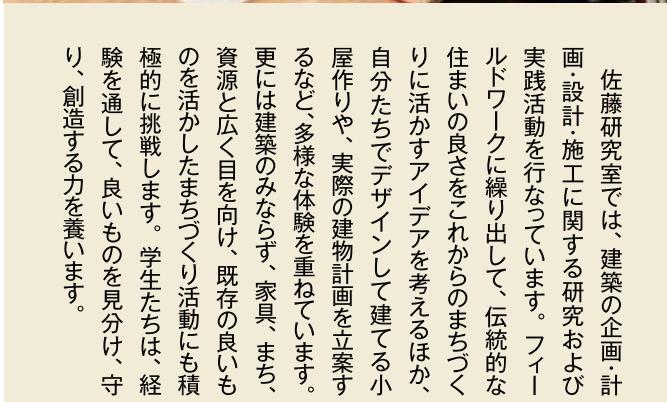
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

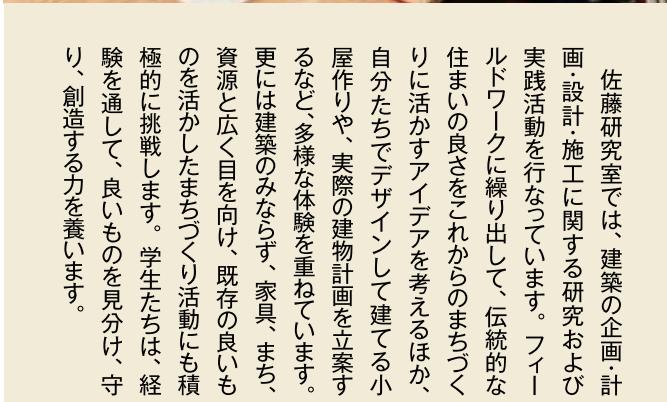
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

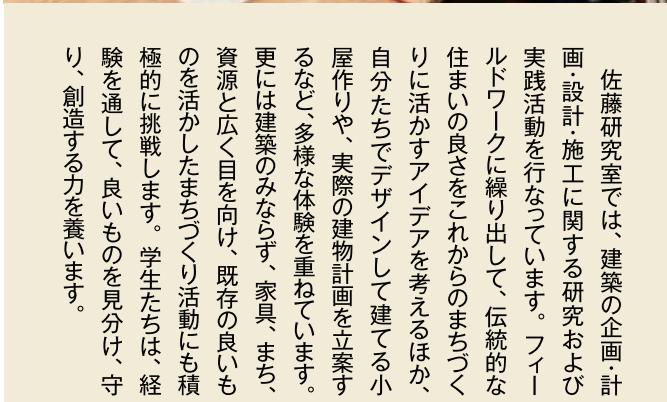
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

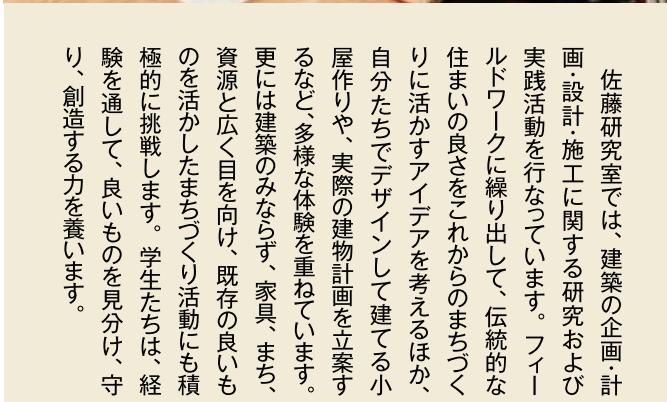
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

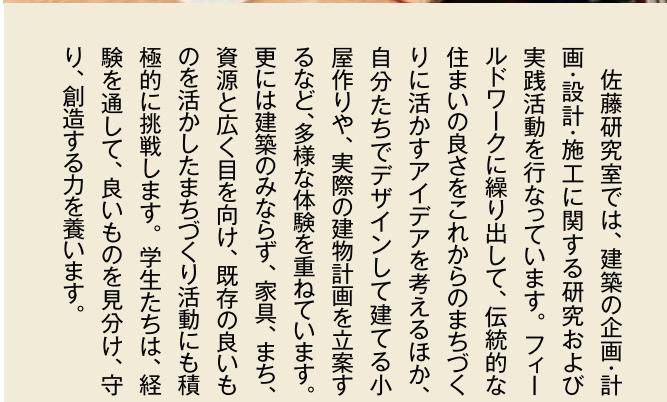
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

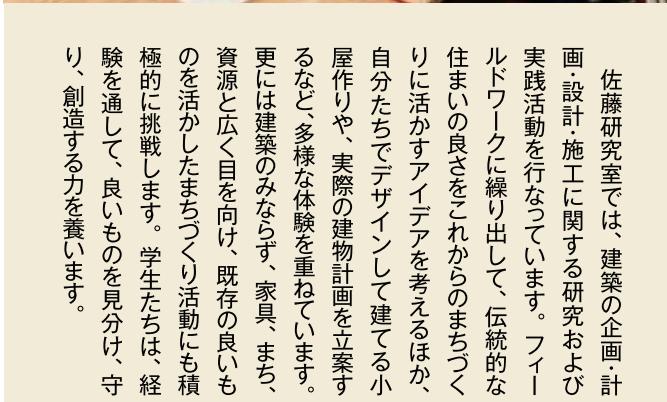
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

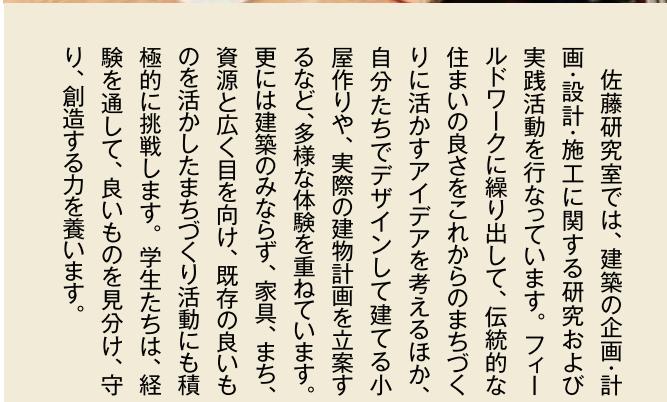
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

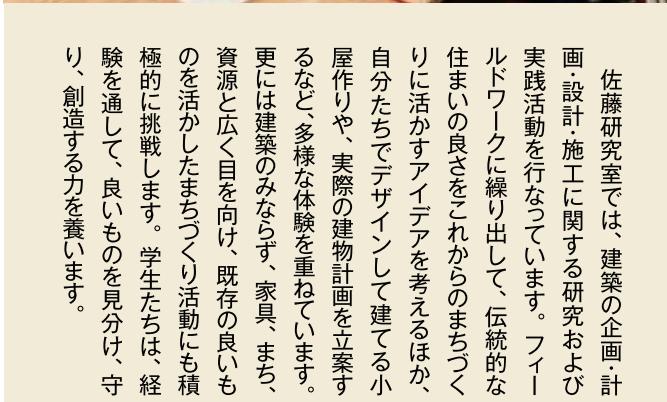
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

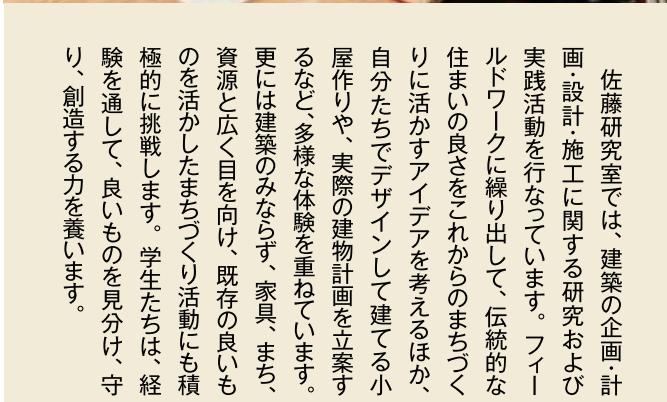
学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に立ったプランニングまでを身に

研究室 PICKUP



佐藤布武研究室

学び、活かし、良いものをつくる

地球的規模であるエネルギー・資源循環の課題に取り組む。

学科長 道正 泰弘

建築物は、人の暮らしを守るとともに地域の風景や文化を創るものであり、長年そこに在り続けます。そのため本科では、エンジニアリングからアートまで建築に関わる幅広い領域を扱い、基礎知識の修得から長期的視野に

近代商業地下街の成り立ち



Column

1942年開業（昭和17年）

日本で当時最大の地下街

旧梅田地下街

（日本／大阪 梅田）

面積
約5,700m²
(開業当時)

当時
国内最大

1955年開業（昭和30年）

現存する地下街では日本最古

浅草地下商店街

（日本／東京 浅草）

面積
約1,280m²

現存する
地下街では
日本最古



1957年開業（昭和32年）

日本で最初の大型商業地下街

名駅地下街 サンロード

（日本／愛知 名古屋）

面積
約11,350m²

大型商業
地下街
として日本初

名古屋駅に最初にできた地下街は、名古屋駅前の「サンロード」地下街である。サンロード開業以前にも、国内の各都市では地下街がいくつか形成されたが、サンロードは日本で最初の「本格的な地下街」といわれている。当時の名古屋駅は、市電やバスを待つ人々があふれ、さらに乗用車が大量に流れ込んでおり、歩行者にとって非常に危険な状態であった。それを解決するため、地下に歩行者のための通路をつくることになった。それまでの地下通路は暗く、防犯上にも問題があったため、地下通路と一緒に商店街を設けることにより、安全でにぎわいのある空間をつくりだすことに成功した。それにより、単なる地下通路が「採算性のある事業」へと発展を遂げた。



▲2003年（平成15年）のサンロード

1930年開業（昭和5年）

日本の地下街の元祖

地下鉄ストア

（日本／東京 上野）

全長
約500m

日本初

1927年（昭和2年）頃、メトロの副業として浅草雷門ビルに食堂がつくられた。しかし食堂だけでは思ったように利益は生めず、地下鉄開発予算に困窮していた。そこで考えられたのが「地下鉄ストア」であった。「どこよりも良い品を、どこよりも安く売る」をコンセプトに、日用品販売をスタート。1930年（昭和5年）に上野駅の構内に「地下鉄ストア」を開業。食料品に日用雑貨、玩具などを販売したところ、たちまち人気となり、事業として成功を収めた。さらに翌年には、「神田須田町地下鉄ストア」をオープンさせている。その成功から間もなく、新しく上野駅にビルを建設し、地下2階、地上9階の「上野地下鉄ストア」が誕生した。これが現在のEchikaの前身ともいえる存在である。



▲1934年（昭和9年）当時の「上野地下鉄ストア」（奥の建物）

1900年開業（明治33年）

商業地下街として世界最大・最古

PATH パス

（カナダ／トロント）

全長
約30km

世界最大

商業施設
1,200軒

1900年当時、ヤング・ストリートにあるイートン社のデパートの本館と別館をつなぐためにつくられた。1917年までに、ダウンタウンの中心部に5つの地下通路が完成し、1927年にユニオン駅が開業すると、地下通路がロイヤル・ヨーク・ホテル（現在のザ・フェアモント・ロイヤル・ヨーク）に接続された。現在、世界最大の地下街としてギネスブックに登録されている。

トロントに地下鉄が走るのは1954年であるから、PATHは地下鉄から波及したものではない、世界的にも珍しい地下街である。



▲1900年当時、トンネル建設の様子



▲現在の様子

名古屋人には馴染みの深い「地下街」だが、日本各地や世界に目を向けてみるとより古く、より巨大な地下街が存在する。今回は、ピックアップした5つの近代商業地下街の成り立ちや歴史について紹介していく。

【出展・参考・協力】

- ◎ 知られざる地下街／廣井悠、地下街減災研究所 著／株河出書房新社
- ◎ 公益財団法人 メトロ文化財団
- ◎ ライフトロントロント現地情報サイト

理工学部後援会の活動

より魅力的な
後援会を目指して。



名城大学理工学部後援会
会長 森 久元

**4 理工学部に関する
諸団体との連携強化**
理工同窓会・技術士会等、
諸団体と連携を密にして、
後援会活動の多角化を図ることを目指しています。

後援会の組織図

平成31年度
理工学部後援会
専門担当委員会
会長 森 久元

企画担当委員会	
役割	後援会を運営するための予算編成と事業計画を推進する
<ul style="list-style-type: none"> ●予算編成 ●会則 ●定期総会 ●地区懇談会 ●フレッシュマンセミナー ●ご父母のための進路セミナー 	
編集担当委員会	
役割	後援会自主活動の報告並びに学部の状況を会員に周知させる
<ul style="list-style-type: none"> ●理工学部紹介DVDの制作について ●後援会会報誌「Scope」の発行について ●後援会ホームページの制作について ●個人情報保護について 	
福利厚生担当委員会	
役割	後援会として学生に援助し得る福利厚生事業を推進する
<ul style="list-style-type: none"> ●学生育英救済制度実施 ●災害見舞金制度実施 ●学生奨励制度実施 ●家庭教育支援制度実施 ●学生課外活動援助 	



名城大学理工学部後援会
会長 森 久元

平成31年度会長に選出されました森でございます。
後援会会員ご父母の代表として、微力ながらがんばつてまいりますので、よろしくご支援ご協力いただきまますようお願いいたします。

昨年度より、3年生全員にTOEIC-iP試験を実施し、多くの方が受験され、今年度以降も実施していく予定です。入学式の立花理事長のごあいさつにも「英語の重視」を述べられており、当会は時代の流れを踏まえながらも、伝統を重んじ、全国の大学における後援会の先頭を行くような活動を推進し、会員の皆さまや学生さんにご満足いただける活動を開催していく予定です。

当会では専用の事務局も設置し、常勤の職員もおりますので、ご子弟に関する些細な相談などでもぜひ後援会を利用してくださいと思います。

後援会では、1年生が入学されてすぐのフレッシュマニセミナーに始まり、卒業時には卒業パーティーの援助や卒業記念品の贈呈まで、後援会活動は入学から卒業まで幅広い支援を行っています。会員ご父母の皆さまに対しましては、地区懇談会・家庭教育支援セミナー・ご父母のための進路セミナーなどさまざまな行事もあります。ご参加いただければきっと皆さまと大いに盛り上がります。

役員・委員とともに、「令和」という新時代にふさわしい後援会作りを目指したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

平成31年度会長に選出されました森でございます。
後援会会員ご父母の代表として、微力ながらがんばつてまいりますので、よろしくご支援ご協力いただきまますようお願いいたします。

昨年度より、3年生全員にTOEIC-iP試験を実施し、多くの方が受験され、今年度以降も実施していく予定です。入学式の立花理事長のごあいさつにも「英語の重視」を述べられており、当会は時代の流れを踏まえながらも、伝統を重んじ、全国の大学における後援会の先頭を行くような活動を推進し、会員の皆さまや学生さんにご満足いただける活動を開催していく予定です。

当会では専用の事務局も設置し、常勤の職員もおりますので、ご子弟に関する些細な相談などでもぜひ後援会を利用してくださいと思います。

後援会では、1年生が入学されてすぐのフレッシュマニセミナーに始まり、卒業時には卒業パーティーの援助や卒業記念品の贈呈まで、後援会活動は入学から卒業まで幅広い支援を行っています。会員ご父母の皆さまに対しましては、地区懇談会・家庭教育支援セミナー・ご父母のための進路セミナーなどさまざまな行事もあります。ご参加いただければきっと皆さまと大いに盛り上がります。

役員・委員とともに、「令和」という新時代にふさわしい後援会作りを目指したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

後援会の基本姿勢

1 支援第一主義

あくまでも学生への支援を第一に考えております。そして次にご父母への還元、さらに理工学部の教育・研究への援助を基本としています。

2 ご父母と大学・学部とのパイプ役

大学や学部とは連絡を密にして、協調し、ご父母と大学・学部との間のパイプ役となります。また、さまざまなお行事を通じて在学中のご子弟に対する不安を解消することを図っています。

3 ご父母の目線での活動

常に会員であるご父母の目線で、またご父母の希望に耳を傾け、活動に反映していくことを目指しています。

4 理工学部に関する 諸団体との連携強化

理工同窓会・技術士会等、諸団体と連携を密にして、後援会活動の多角化を図ることを目指しています。

理工学部への入学理由
祖父が土木関係の仕事をしていた影響で、高校時代から土木に興味を持っていました。家から通える範囲で、土木に関して本格的に学べることから、名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科を選びました。

大学生活を振り返って
「プリッジコンテスト」への参加が印象深いです。橋梁などの構造物の耐震・制震に関する研究室に所属しており、コンテストへの参加メンバーと一緒に模型を作るなど、協力し合って取り組みました。

就職活動について
大学進学当初から「公務員になつて地域密着で働きたい」と思っていたので、学内の公務員試験対策講座などを活用して、早期から公務員職に就くための準備をしていました。

今後の仕事について
名古屋市はこの先、リニア開通に伴う都市計画が控えています。土木職として、街づくりの役に立てたら嬉しいです。

両親に向けて一言
大学生活を見守り、支えてくれて、感謝しきれない思いです。

就職

名古屋市役所（土木職）
鈴木涼さん 社会基盤デザイン工学科 卒業

学んだ知識をベースに、地域のお役に立つ仕事をしたい。

平成31年3月20日、ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館）において平成30年度の卒業式が挙行されました。卒業後のさらなるご活躍に期待します。

情報工学科を選んだ理由
もともと情報工学に関心があり、これから伸びる分野だと考えています。名城大学の情報工学科は研究内容も優れていて、「ここで学びたい」と思い進学を決めました。

特に印象に残っている授業は？
情報セキュリティやプログラミングについての学びは特に興味深かったです。また、アブリ作成も面白く感じました。授業で得たスキルを活かしてビングゲームを作成し、親戚の集まりでみんなで楽しんだのも、良い思い出です。

情報工学科を選んだ理由
もともと情報工学に関心があり、これから伸びる分野だと考えています。名城大学の情報工学科は研究内容も優れていて、「ここで学びたい」と思い進学を決めました。

大学院で研究と人間的な成長を続け、大きく羽ばたきたい。
まずは研究に取り組みながら、人として成長したいです。修了後は熟だ」と感じ、先生やキャリアアセスメントの方に相談しました。親にも相談すると「自分の好きなことをやりたい」と言つてくれたので、大学院に進学して、大学での研究を深めることになりました。

大学院への進学について
当初は就職を考えていました。しかし、「自分は社会に出るにはまだ未熟だ」と感じ、先生やキャリアアセスメントの方に相談しました。親にも相談すると「自分の好きなことをやりたい」と言つてくれたので、大学院に進学して、大学での研究を深めることになりました。

進学
名城大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻
古川湧さん 情報工学科 卒業



卒業生インタビュー



フレッシュマンセミナー

充実した大学生活を送るための第一歩

一泊二日で行われる本セミナーは、大学生としてのマナーを大学で学んだ後、三河湾沿いの宿泊施設に移り、大学での学びを体験します。新たな仲間や教員、先輩とのつながりを深めながら、これから始まる大学生活への期待と自信を高めます。



1日目



【セミナーI】
自律した大学生に
隣席同士で話し合う実践を交えながら、マナーの基本原則や3秒で決まる第一印象の大切さなどを学びました。

大学を出発!



宿泊施設に到着!



【宿泊先へ向け、バスで移動】
交流のチャンス!

宿泊先までの移動中も新しい仲間と交流するチャンス。旅行気分も加わり、少しづつ緊張が解けていきます。

新しい仲間を
つくろう!

セミナーの感想を新1年生に聞きました!

フレッシュマンセミナーは友だちをつくるきっかけがたくさんあり、ワークショップを通じて同じグループのメンバーと仲良くなれてよかったです。これから先の大学生活や学びについて、一層関心が高まる良い機会になりました。

マナー講座では第一印象の大切さを知りました。これから人と接する時は挨拶や表情をもっと意識しようとおもいます。人と接することは社会に出てからも不可欠なので、これから4年間でマナースキルを高めていきたいと思いました。

ワークショップスタート直後は緊張しましたが、徐々にグループのみんなと打ち解けることができ、自分の意見も言えるようになりました。同席してくださった先輩はアドバイスのタイミングが絶妙で、とても頼りになる存在でした。



金山 香澄さん



尾崎 祐太さん



谷藤 春奈さん

大学生の 学び方とは?

海の幸を堪能



【夕食】
おいしい息抜き

お待ちかねの夕食では、三河湾の海の幸など数々の料理を堪能。仲間との会話も弾み、和やかなひと時となりました。

プレゼンの準備



【セミナーII 後半／まとめ】

主体性を磨く

「今すべきこと」を一人ひとりが考え行動し、自分たちの考えを1枚のポスターにまとめ上げました。

2日目



【セミナーIII／発表】

伝える力を高める

学会でも使用される手法で自分たちの考えを発表し合い、大学での学びの形を体験することができました。

【セミナーIII／発表】【セミナーIV】

意義ある大学生活を送るための目標づくり

これから始まる大学生活を充実させるため、目標づくりの大切さや目標のつくり方などを学びました。

12:00には大学へもどり、2日間のセミナーを終えました。

セミナー
開催目的

一つのテーマについて各グループで議論し、自分の考えを伝えるとともに、相手の意見を受け入れる意欲をもつて信頼できる友人関係を形成することで、主体的に勉学をするきっかけをつくります。

自分の考えを伝えるとともに、相手の意見を受け入れる意欲をもつて信頼できる友人関係を形成することで、主体的に勉学をするきっかけをつくります。

就職・大学院進学の現状を理解する絶好の機会

理工学部生の就職事情や進学についての解説、学生との接点が多い大学職員によるディスカッションなど充実したセミナーで、毎年ご参加になるご父母も多数います。昨年度の様子に沿つて主な内容を紹介しましょう。

【開催の目的】

- ① 就職活動の現状を知る
- ② 大学院で学ぶ意義を考える
- ③ 学びの施設を見学する

【参加対象者】

理工学部全学年のご父母

【日時】

6月22日(土)12時～16時45分

大学施設見学ツアーにご参加でない場合は13時から

【会場】

名城大学天白キャンパス

共通講義棟北1階 名城ホール(N101)



スケジュール

学科別懇談 15:30～

4

学科別の会場に移動した後、学科長あいさつに続いて、学科の教育方針や就職状況、大学院進学についての説明を行います。ご父母からの疑問・質問にお答えする時間もご用意しています。



パネルディスカッション 14:00～

3

キャリアセンターの担当者が大学としての就職活動へのサポート体制の数々を紹介します。昨年度はその後、学生たちと接点が多い大学職員4人をパネラーとして、「充実した大学生活のために親と大学ができるこ



全体懇談 13:00～

2

後援会長、理工学部長、理工同窓会長のあいさつに続いて、理工学部における最近の就職状況や大学院進学についてお話しします。

【就職と進学について】

理工系分野で高度専門職としての活躍を目指すのなら、大学院を経て就職するのが望ましいとの声もあります。学部卒で就職することのメリット・デメリットや大学院進学の意義、進学にあたっての各種サポート等についてご紹介します。



大学施設見学ツアー 12:00～

1

受付を済ませた後、学科別のグループに分かれて、最新の研究機能を備えた『研究実験棟II』や学生が所属する学科の実験施設等を見学し、研究内容についての説明を受けます。(希望者のみ)



就職活動の現状を 知る

インターネットもEIS(エントリーシート)もなかつた親世代の就職活動当時と現代では、就職をとりまく環境も学生たちの動きも様変わりしています。親として、子ども世代の就職に不安を覚えるのも無理はありません。

そこで当セミナーでは、就職活動全般のタイムスケジュールと大学の就職サポート体制、学生たちの率直な思いなどをお伝えしていきます。

**大学院で学ぶ意義を
考へる。**

一般には、大学卒業後は就職して社会に出るものと思われがちです。しかし、大学院へ進学するという道もあります。特に理工系においては、企業側が大学院卒を重用する傾向にあることから、就職を見据えた上で大学院に進学する学生が多く存在します。名城大学は大学院理工学研究科を備え、多彩な分野で最先端の研究を展開しています。名城大学大学院では学業成績および人物優秀な学生に対して奨学制度を設けており、セミナー当日は、大学院進学についての説明を行います。



学びの施設を見学する

当曰は、最新の研究機能を備えた地上4階地下1階建ての「研究実験棟Ⅱ」をはじめとする各種研究施設の見学ツアーを学科ごとに実施します。研究内容についての説明を聞いたり、教員の指導のもとで院生のサポートを受けて実験に取り組む学部生たちの様子を目ににする機会もあります。理工学部生の日常に接することができます。



参加お申込方法

申込はがき、またはホームページよりお申込ください。

- **申込はがき**／本誌に同封されているパンフレット「ご父母のための進路セミナー」の受講申込はがきに必要事項をご記入の上、申込締切期日までに投函してください。
 - **理工学部後援会ホームページ** <http://www.meijo-rikokoen.jp>／「ご父母のための進路セミナー」の受講参加申込専用フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。
 - ※開催会場へのアクセスなど、詳しくは後援会ホームページまたはパンフレットをご覧ください。



大学院で学ぶ意義を考える

大学院で学ぶ意義を考える

**大学院で学ぶ意義を
考へる。**

一般には、大学卒業後は就職して社会に出るものと思われがちです。しかし、大学院へ進学するという道もあります。特に理工系においては、企業側が大学院卒を重用する傾向にあることから、就職を見据えた上で大学院に進学する学生が多く存在します。名城大学は大学院理工学研究科を備え、多彩な分野で最先端の研究を展開しています。名城大学大学院では学業成績および人物優秀な学生に対して奨学制度を設けており、セミナー当日は、大学院進学についての説明を行います。



- パネラーの方は、学生たちのことを熟知されている様子で、本当にためになりました。海外留学はぜひ検討したいです。
 - 娘は建築学科ですが、将来はたしてこの道でやつていけるのか確認するためには参加しました。知識が増え、とても参考になり安心に繋がりました。子どもの自主性を大切にしたいと思います。
 - 今時の学生の性質がたいへんよく分かりました。
 - 大学施設見学ツアーでは、どんな環境で勉強しているのか垣間見ることができました。設備の充実度にはかなり驚きました。もつとたくさんの施設が見たいので来年も参加します。
 - 学科別懇談で詳細に説明していただきましたのがよかったです。

「父母の皆さまの声

昨年度で開催4回目を迎えた「ご父母のための進路セミナー」は、就職活動を控えた学生のご父

その中でも、普段学生と接する機会が多く、学生の現状を理解している4人の大学職員によるパネルディスカッション「充実した大学生活のために親と大学ができること」がたいへん好評でした。大学生生活のこと、学業のこと、課外活動のこと、海外留学のこと、学部卒業後の進路のことなど、事前のご父母へのアンケートを元に、活発なディスカッションが繽び広げられました。

地区懇談会

先生方と じつくり話せる 貴重な機会

地区懇談会は、学部の先生方の協力のもとに実施しています。名古屋をはじめ全国各地で開催しますので、ぜひご参加ください。ご父母の皆さまと先生方が直接、交流を深める貴重な機会となります。

【地区懇談会とは】

- ① 教務・就職・進学について各担当の先生より詳しくご説明します。
- ② ご子弟の成績や進路、学生生活についてご相談いただき、きめ細やかなご説明と適切なアドバイスでお応えします。
- ③ 大学の状況や進路などについて疑問や心配事を先生や他のご父母の皆さまと共に問題解決していきます。

【参加対象者】

理工学部全学年のご父母



豊橋会場 新設！
三河地区的皆さま
ぜひご参加ください。

【会場と日程のご案内】

名古屋会場 13:00より開催 地方会場 10:00より開催

名古屋会場 10月13日(土)

数学科・情報工学科・電気電子工学科・材料機能工学科

名古屋会場 10月20日(土)

応用化学科・機械工学科・交通機械工学科・メカトロニクス工学科

名古屋ガーデンパレス 名古屋市中区錦3丁目11-1

名古屋会場 10月19日(土)

社会基盤デザイン工学科・環境創造学科・建築学科

名古屋栄東急REIホテル 名古屋市中区栄3丁目1-8

福岡会場 9月21日(土)

ホテルクリオコート博多 福岡市博多区博多駅中央街5-3

豊橋会場 9月22日(日)

ロワジールホテル豊橋 豊橋市藤沢町141

NEW

津会場 9月28日(土)

ホテルグリーンパーク津 津市羽所町700

富山会場 9月29日(日)

パレプラン高志会館 富山市千歳町1-3-1

大垣会場 10月5日(土)

クインテッサホテル大垣 大垣市宮町1-13

浜松会場 10月6日(日)

ホテルクラウンパレス浜松 浜松市中区板屋町110-17

岡山会場 10月12日(土)

TKPガーデンシティ岡山 岡山市北区中山下1-8-45



名古屋会場 スケジュール

学科別懇談 14:00～

学科別に分かれて、教務関係や就職、大学院進学などについての説明を受けます。



4

受付開始 12:30～

受付を済ませて全体懇談会場へ向かいます。



1

個別懇談 待合懇談 14:30～

別室にて個別懇談を行います。個別懇談の順番が来るまで学科別懇談会場では、先生がご父母の質問に丁寧に答えてくれます。



5

理工学部紹介 DVD上映 13:00～

映像を通して、各学科の研究内容や学内施設、先生方のご活躍ぶりや学生たちの学部での日常の様子を知ることができます。



2

懇親パーティー 16:40～17:50

和やかな雰囲気の中で、先生とご父母が飲食とともにしながら自由に話の花を咲かせます。



6

全体懇談 13:40～

後援会長のあいさつに続いて、学部長から理工学部の研究活動の現状や施設の充実についてほか、名城大学並びに理工学部全体の説明があります。



3

地方会場 スケジュール

福岡・豊橋・津・富山・大垣・浜松・岡山



- ① 受付開始 9:30～
- ② 理工学部紹介DVD上映 10:00～
- ③ 全体懇談 10:40～
- ④ 個別懇談・待合懇談 11:20～
- ⑤ 昼食会 13:00～14:00

全体の流れおよび内容は、各地区とも名古屋会場と共通です。理工学部とご子弟の現状についてご父母の皆さまからお気軽にご質問・ご相談いただけます。名古屋会場より参加者数が少ない分、和やかな雰囲気です。

参加お申込方法

8月初旬に郵送される「案内パンフレット」をご覧ください。

会場の地図と日程については下記ホームページより詳しくご案内しておりますのでご確認ください。
●理工学部後援会ホームページ <http://www.meijo-rikokoen.jp>



就職活動や 大学生活について 知りたい

からの就職活動について関心があり、今回初めて参加しました。いろいろなことがあります、大学の先生とお話しする機会は滅多にないので、楽しみでもあります。

大学の話をじっくりと聞く 良い機会

子どもは大学院への進学を希望しているようで、大学からの話も聞きたいと思いたい、初参加しました。具体的な話ができる、こういう機会があるのは良いと思いました。

子どもの就職・進学をしつかり考える

3年生の親ですが、初めて参加しました。日ごろから子どもと話していますが、この場で先生からも詳しいお話を聞きできただけで、安心感がわきました。



——ご参加いただいたご父母と先生の「声」——

大学の先生と 親しく話す チャンス

大学の先生と懇談する機会など、日常ではありませんが、来年もぜひ来たいと思いました。

ご父母と語らう 充実した時間

教員サイドにどうでも、ご父母の方々と語らう時間を持てるのは良い機会であり、指導の参考となります。

**同じ学科の
ご父母からの
話も参考に**

1年生の親です。こうして2年生のご父母にも何かとお聞きできる機会を得て、意義ある一日となりました。

**来年もぜひ
この場に来たい**

先生とお話ししたり、父母同士のつながりが生まれたりと、地区懇談会は充実した内容で、ぜひ参加すべきですね。



家庭教育支援セミナー

多感な青年期の心の理解を深める

ご父母の皆さんに、家庭教育の重要性について再確認していただくとともに、ご子弟の悩みごとに応える能力を身につけていただきことを目的として、各地での講演会や、学内での心理学講座を実施します。ぜひともご活用ください。



家庭教育支援セミナー 講演会

優秀な講師を全国各地に派遣し、気軽な講演会、フリーディスカッションなどを通じて家庭教育の重要性を認識していただき、ご父母の皆さまが身近な相談役としてご子弟の悩みなどに対応する能力を身につけていただくことを目的としています。このセミナーは全国の大学に先駆けて名城大学が開講し、文部科学省、地方自治体、マスコミなども大変注目しており、毎年多くのご父母の方が参加しています。講演会は何回でも受講できますので、よりいつそう内容が深まり、参考にしていただけます。

家庭に活かす 心理学講座

当講座は心理学を中心とした内容をご父母の皆さんにご提供し、それをご家庭に活かしていくいただき、よりいっそうの教育力向上を目指す目的で開設されました。心理学については初学者にもわかりやすく、初歩から解説します。心理学等の学問的内容の理解をし、家庭教育に活用していただくことは重要ですが、さらにこの講座を受講したことにより、ご父母世代の「自分探し」、また子育てが終わってからの、これから続していく質の高い人生への手掛かりとしていただけます。

名城大学天白キャンパス
11号館 504教室・第一会議室など
令和元年7月～令和2年3月 全20回

●担当講師

鈴木亮子 先生
堀山女学園大学 人間関係学部 心理学科 准教授

吉住隆弘 先生
中部大学 人文学部 心理学科 准教授

吉田琢哉 先生
岐阜聖徳学園大学 教育学部 准教授

川島一晃 先生
堀山女学園大学 看護学部 看護学科 専任講師

信太寿理 先生
中京学院大学 短期大学部 保育科 専任講師

清水麻莉子 先生
中部大学 非常勤講師

吉本直美 先生
名城大学 非常勤講師

●受講時間 各回 13:00～16:15(休憩15分)

●定員 50名(一度当講座を受講されたご父母はお申込できません)

●受講料 無料(別途教材費がかかる場合があります)



名古屋会場 7月7日(日) 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階 レセプションホール

津会場 7月28日(日) 三重県教育文化会館 第3会議室

講演テーマ 犯罪者を生み出さない家庭や地域社会のあり方



吉澤寛之 先生
岐阜大学教育学部 准教授
博士／心理学
専門／社会心理学

名古屋会場 7月20日(土) 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階 レセプションホール

浜松会場 8月3日(土) サーラシティ浜松2階

講演テーマ 現代家族における親と子にとっての自立



平石賢二 先生
名古屋大学大学院
教育発達科学研究科 教授
博士／教育心理学
専門／生涯発達心理学

名古屋会場 8月31日(土) 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階 レセプションホール

講演テーマ 集団と個人 —他者から受ける影響過程—



吉田俊和 先生
岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
名古屋大学 名誉教授
博士／教育心理学 専門／社会心理学

吉田先生によるユーモアあふれた楽しい講演は今年が最後です。ぜひご参加ください。

名古屋会場 9月14日(土) 名城大学 天白キャンパス 11号館 504教室

講演テーマ やる気の心理学



和氣洋美 先生
神奈川大学 名誉教授
博士／医学
専門／知覚認知心理学
高齢者障害者福祉心理学

●講演 13:00～14:20

●質疑応答・フリーディスカッション 14:30～15:10

●受講料 無料

参加お申込方法 申込はがき、またはホームページよりお申込ください。

●申込はがき／本誌に同封されている各パンフレット、「家庭教育支援セミナー 講演会」または「家庭に活かす心理学講座」の受講申込はがきに必要事項をご記入の上、申込締切期日までに投函してください。

●理工学部後援会ホームページ <http://www.meijo-rikokoen.jp>／「家庭教育支援セミナー 講演会」

または「家庭に活かす心理学講座」の各受講参加申込専用フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。

※各開催会場やアクセスなど、詳しくは後援会ホームページまたは各パンフレットをご覧ください。



学生奨励表彰式

学生たちの健闘と成果をこころより祝福

学術・スポーツ・文化の各分野において、めざましい活躍をしたと認められる理工学部在籍の学生たちを後援会が表彰する学生奨励制度。平成30年度は53名・5団体が選ばれ、平成31年3月1日に表彰式が行われました。



平成30年度 理工学部後援会 学生奨励制度表彰者 (学年は平成31年3月現在のもの)

学術関係

数学科	3年 伊藤 彰悟 3年 小林 誠之	3年 松井 菜緒 3年 横島 悠介
情報工学科	3年 水谷 友哉 3年 佐橋 佳央梨	3年 水谷 文紀 3年 島津 秀晟
電気電子工学科	3年 鶴田 将啓 3年 雨宮 立弥	3年 茶谷 光彦 3年 鈴木 元就
材料機能工学科	3年 松本 浩輝 3年 小松 千絵	3年 宮本 義也 3年 豊田 隼大
応用化学科	3年 光崎 志歩 3年 大野 沙織里	3年 三輪 聖加 3年 近藤 秀
機械工学科	3年 本部 航平 3年 堀田 樹	3年 石川 修也 3年 中嶋 優人
交通機械工学科	3年 大倉 有騎 3年 石川 裕真	3年 石川 和磨 3年 長谷川 佳希
メカトロニクス工学科	3年 松尾 純汰 3年 鈴木 将太	3年 笹井 大和 3年 岩澤 亮介
社会基盤デザイン工学科	3年 佐治 瞳 3年 渡 玲菜	3年 貝屋 昇磨 3年 加藤 和人
環境創造学科	3年 西川 祐貴 3年 青山 祐輔	3年 藤原 基義 3年 奥村 元尚
建築学科	3年 谷 哉汰 3年 石川 舞花	3年 近藤 すみれ 3年 中島 混太

スポーツ関係

● 体育会 硬式野球部 【表彰者選出基準 1】
交通機械工学科4年 櫻井 裕太
社会基盤デザイン工学科4年 高比良 祐紀
電気電子工学科2年 飯田 悠雅
数学科1年 近藤 悠斗
数学科1年 家田 凌輔
愛知大学野球連盟秋季リーグ戦 団体 優勝
● 体育会 ゴルフ部 【表彰者選出基準 1】
数学科3年 森 一晟
中部学生ゴルフ秋季1・2部大学対抗戦 団体男子 優勝

文化関係

● 文化会 将棋部 【表彰者選出基準 1】
情報工学科4年 黒川 和樹
秋季個人戦 個人 優勝
● 理工学部 エコノパワークラブ 【表彰者選出基準 1】
Honda エコマイレッジチャレンジ2018 第32回 鈴鹿大会 団体〈MEGV2004〉グループ3 優勝

その他

● 情報工学科4年 池田 武史 【表彰者選出基準 2】
● 情報工学科4年 木村 信裕 【表彰者選出基準 2】
学生ハックイベント「JPHACKS 2018」Best Hack Award 大賞
● 建築学科3年 半澤 龍 【表彰者選出基準 2】
アジア建築新人戦日本代表選出

名城大学理工学部後援会 学生奨励制度表彰規定

1 目的

この制度は、名城大学理工学部の学生で、人物・学業共に、優れた者あるいはスポーツ並びに文化活動において、大学の名声をとくに広めた者に対し、その功績をたたえるとともに、本人をはじめ他の学生の今後の励みになることを念願して設立する。

2 適用範囲

名城大学理工学部に在籍する学生。

3 審査方法及び機関

理工学部長の推薦により、理工学部後援会福利厚生委員会において審議決定する。

4 審議時期

適時

5 奨励方法

表彰状並びに副賞(記念品)とする。

6 ① 表彰者選出基準

区分 資格 基準

区分	資格	基準	年間引当数
学術関係	個人	3・4学年に在籍する者のうち、人物・学業共に優秀な学生で各学科ごとに推薦された者。	1学科4名以内
スポーツ関係	個人又は団体	1 名城大学体育運動部に所属し、東海大学選手権大会又はリーグ戦等に於いて優勝したチーム。又は個人。若干名 2 全国規模における競技会に於いて3位以上に相当する賞を受けた個人又は団体。 3 前1・2号優勝者以外で個人賞として特別に表彰された者。 4 体育会運動部主将として著しく部の発展に貢献した者。但し在学中一回限りとする。	
文化関係	個人又は団体	1 名城大学文化クラブに所属し、東海又は中部大会以上の競技会に於いて優勝した個人又は団体。若干名 2 前号以外で、全国的規模における競技会に於いて3位以上に相当する賞を受けた個人又は団体。	

② 上記区分以外で、会長若しくは学部長の推薦により、後援会福利厚生委員会が妥当と認めた者に対しても、上記区分に該当する者と同様に表彰することができる。

③ 前項①②共、後援会費納入会員の子弟とする。

7 表彰方法

表彰者氏名及び該当事項を公示し、後援会委員会の席上において表彰する。

昭和57年4月1日付をもって施行する。

附則 平成5年10月21日一部改正 平成10年3月24日一部改正 平成11年6月4日一部改正 平成25年1月30日一部改正 以上

その他の活動紹介

学生とご父母を きめ細やかに 幅広くサポート

理工学部後援会では、本誌面で紹介してきた諸活動のほか、
様々な支援・援助活動を行っています。



理工学部後援会 定期総会の開催

平成31年4月1日(月)の入学式後、天白キャンパス共通講義棟(南)102教室において、理工学部後援会定期総会が開催されました。議案はすべて承認され、会長には森 久元氏(数学科4年ご父母)が選出されました。

理工学部後援会 ホームページの制作

後援会活動や大学についての最新の情報を迅速にご父母の皆さんに提供するため、ホームページを制作しております。「ご父母のための進路セミナー」「地区懇談会」「家庭教育支援セミナー」へのご参加のお申込もホームページから行うことができますので、ぜひご利用ください。また、「フォトアルバム」には活動の様子を掲載していますので一度ご覧ください。



会報誌「Scope」の発行

後援会活動の紹介、キャンパス、ご子弟の様子、ご父母の皆さまの声などを掲載しています。

難関資格取得者に記念品を贈呈

学生が取得した資格の中で、難関資格を取得した学生に対し記念品を贈呈します。

TOEIC®受験援助

12月7日(土)に本学にて実施するTOEIC-IP試験について、理工学部3年生は全員無料で受験できます。

卒業記念品贈呈・卒業パーティー援助

会員ご子弟の卒業生全員に対し記念品を贈呈しています。

学会発表の援助

学会や研究会で発表する学生へ旅費や参加費を援助しています。

学生用図書の援助

学生の勉強の参考となる図書の購入を援助しています。

名城大学女子駅伝部は
全日本二冠連覇を
目指します！

女子駅伝部は昨年、10月の第36回杜の都駅伝と12月の2018富士山女子駅伝で優勝、二冠を達成しました。今年は二冠の連覇を目指し、充実した環境の中、練習しています。皆さま、応援よろしくお願いいたします。



こんにちは。理工学部後援会事務局です。

理工学部後援会事務局は常勤職員3名が常駐しています。事務局は11号館2階(11-221室)にあります。後援会に対して、ご意見などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。また、ご子弟の学生生活等について、不安などありましたらご相談に応じます。家計が急変された方もご遠慮なくご相談ください。なお、ご相談内容については秘密厳守いたしますので、ご安心ください。



【主な担当】
● 事務全般(事務補助業務)
● 後援会事務局
● 給費管理制度、後援会寄贈図書、学生奨励表彰制度、名簿管理など

吉本直美 会計幹事(事務局次長)
堀一貴 事務局長
林友美 契約職員

【主な担当】
● 後援会事務全般
● DVD・会報誌Scopeなどの広報関係
● 地区懇談会・育英
● フレッシュマンセミナーなど
● 学生会議会計および事務全般
● 地区懇談会・育英

●Tel&Fax 052-831-9214 ●E-mail jimukyoku@meijo-rikokoen.jp ●http://www.meijo-rikokoen.jp

分からぬこと、気になること、心配事は、こちらへご相談ください。

